

日本言語政策学会第10回大会

予稿集

2008年11月8日・9日

於 奈良教育大学

日本言語政策学会

日本言語政策学会第10回大会

大会テーマ：グローバル化時代の言語教育

—欧州の経験は日本社会で活かせるのか？

日時：2008年11月8日(土)13:00-17:30

11月9日(日)10:00-17:00

会場：奈良教育大学共通講義棟(奈良県奈良市) <http://www.nara-edu.ac.jp/>

参加費：会員無料、非会員3000円、非会員の大学院生1500円 予稿集代：500円

11月8日(土)

12:00～ 受付開始

【101教室】 総合司会 松川利広(奈良教育大学)

13:00～13:15 開会の辞 田中慎也(日本言語政策学会会長)

会場校挨拶 柳澤保徳(奈良教育大学学長)

【101教室】

13:15～14:15 基調講演

”European Approaches to Language Policy.

—Historical and contemporary perspectives—”

講演者 Prof. Dr. Michael Byram(Univ. Durham, England)

司会 大谷泰照(名古屋外国語大学)

通訳 松浦京子(京都産業大学附属中高等学校)

14:15～14:30 休憩

【101教室】

14:30～17:30 シンポジウム

Common European Framework of Reference for Languages (CEFR) と

日本での応用可能性？

パネリスト Prof. Michael Byram、西山教行(京都大学)

杉谷眞佐子(関西大学)、真嶋潤子(大阪大学)

司会 橋内武(桃山学院大学)

18:00～20:00 懇親会 生協食堂(会費3,500円)

11月9日(日)

09:00～ 受付

10:00～11:30 事例報告・研究発表

【101 教室】 事例報告 司会 棚橋尚子(奈良教育大学)

(1)事例報告 タイ・プーケット島における言語景観－観光地の多言語化研究の一例として－
山川和彦(麗澤大学)

(2)事例報告 言語選択・国際化・共生に対する二面性
－浜松市の地域住民と日系ブラジル人の場合－
杉野俊子(防衛大学校)

(3)事例報告 ブータン王国の言語政策－現状と課題－
西田文信(麗澤大学)

【102 教室】 研究発表 司会 李守(昭和女子大学)

(1)研究発表 英語教育と国語教育の連携に関する一考察
五十川敬子(立命館大学)

(2)研究発表 家庭環境・社会環境に起因する英語力格差とその世代間変容
寺沢拓敬(東京大学大学院生)

(3)研究発表 我が国の外国語教育への提言－韓国の外国語教育政策に鑑みて－
塩見千夏(関西大学大学院生)

【104 教室】 研究発表 司会 佐々木倫子(桜美林大学)

(1)研究発表 日本の対外政策からみた中国語教育の変遷
－中国語教科書にあらわれる文字表象の政治性－
張 伶華(京都大学大学院生)

(2)研究発表 言語権概念の批判的検討
かどやひでのり(津山工業高等専門学校)

(3)研究発表 日本語教育のあり方を考える－フランスの言語政策と対比して－
山口雅代(名古屋外国語大学大学院生)

12:00～13:00 休憩(昼食)

【101 教室】 13:00～13:30 総会

【101 教室】

13:30～14:30 基調講演

「国語教育と日本語教育をめぐって」

講演者 水谷修(名古屋外国語大学学長)

司会 細川英雄(早稲田大学)

14:30～14:40 休憩

【101 教室】

14:40～16:50 パネルディスカッション

「これからの国語教育と日本語教育－「言語力」育成の観点から、両者の関係を考える－」

パネリスト 水谷修(名古屋外国語大学)

松川利広(奈良教育大学)

宮崎里司(早稲田大学 兼司会)

【101 教室】

16:50～17:00 閉会の辞 杉谷眞佐子(日本言語政策学会副会長)

目次

大会プログラム 1

【研究発表・事例研究】

タイ・プーケット島における言語景観
－観光地の多言語化研究の一例として－ 8

言語選択・国際化・共生に対する二面性
－浜松市の地域住民と日系ブラジル人の場合－ 11

ブータン王国の言語政策－現状と課題－ 14

英語教育と国語教育の連携に関する一考察 17

家庭環境・社会環境に起因する英語力格差とその世代間変容 20

我が国の外国語教育への提言
－韓国外国語教育政策に鑑みて－ 23

日本の対外政策からみた中国語教育の変遷
－中国語教科書にあらわれる文字表象の政治性－ 26

言語権概念の批判的検討 29

日本語教育のあり方を考える－フランスの言語政策と対比して－ 32

【講演】

基調講演
”European Approaches to Language Policy.
－Historical and contemporary perspectives－” 36
Prof. Dr. Michael Byram (Univ. Durham, England)

「国語教育と日本語教育をめぐって」	39
水谷修（名古屋外国語大学学長）	

【シンポジウム】

**Common European Framework of Reference for Languages (CEFR)
と
日本での応用可能性？**

A Common European Framework of Reference: learning teaching assessment OR a (taxonomic) Model of Learning Teaching and Assessment to which to refer?	43
Prof. Michael Byram (Univ. Durham, England)	

CEFRの批判的「輸入」は可能か	50
西山教行（京都大学）	

CEFRと「コミュニカティブ・アプローチ」再考 —「外国語としてのドイツ語」の事例から考える—	51
杉谷眞佐子（関西大学）	

CEFRの利用例と今後の応用可能性 —大阪大学外国語学部の場合—	52
真嶋潤子（大阪大学）	

【パネルディスカッション】

**「これからの国語教育と日本語教育
—「言語力」育成の観点から、両者の関係を考える—**

日本の言語教育政策・計画を考える 国語教育、日本語教育を出発点として —求められる言語能力とは何か—	54
水谷修（名古屋外国語大学）	

「国語教育（国語科教育を含む）」と 「日本語教育」をつなぐ「言語力」	55
---------------------------------------	----

松川利広（奈良教育大学）
「国語教育」「日本語教育」の連携と、
その複合的な能力育成をめざして 57
宮崎里司（早稲田大学 兼司会）